AI（Reading Progress）を活用した音読の授業（英語）No２

１．はじめに

英語の授業では、自分の思考をスピーチで表現し、相手にどのように伝わるかの表現力を、客観的に振り返る機会が少ない。そこで、Teamsの音読テスト（Reading Progress）の機能を活用し、英語でスピーチする自分の姿を録画し、発音だけでなく、表情や表現力のセルフチェックの確認ができると良いと考えた。パソコンに向かって話す事前の模擬体験を通して、話し方や表情など、自信を持って相手と会話することができることをねらいとする。

２．授業展開例　　～思い出に残っている学校行事を　英語でスピーチしよう～

（１）ステップ１：思考ツール（アナログ）で、思い出に残っている学校行事を想起する。

　　　　　　　　　　　電子教科書のLet’ｓ　Ｐｌａｙの学校行事の絵を電子黒板に投影し、自分の好きな思い出を想起する。

また、パソコンで翻訳アプリを起動して、わからない英文や単語は、日本語→英語に変換する機能やパソコンで発声する機能を活用し、英会話に役立てる。

（２）ステップ２：Teamsの課題（Reading Progress）で音読テストを作成する

児童は、Teamsの課題を開き、自分のスピーチを録画し、発音だけでなく、表情などの表現力もセルフチェックする。何度もスピーチに挑戦し、一番良いビデオを先生に送信する。

　　【Reading Progress　の教師画面】　　提出課題の映像・音声の再生、AIによるチェックができる。



コメントを入力し、児童に返却

３．ICTを使うことのメリット

英語のスピーチ練習では、例文から、自分の表現したい文を作り、相手に伝える表現力が大切であると考える。英会話では、自分の発音や会話のやり取りが不安だと思う児童が多い。そこで、パソコンのビデオ機能を活用し、構文の正しさだけでなく、相手への伝え方などの総合的な表現力を育成するためのセルフチェックに取り組む。英会話をする前段階のシミレーションとして、何度も確認できるという点では、大きなメリットだと思います。